

し、その他の記事も婦人と年少者に關するものではできるだけこれを登載して、従来の月報よりも更に平易にし、一般社会人の物として広く有利益とするに成りました。

婦人の職業意識を高める 運動をかえりみて

この十一月から来二十八年の二月にわたつて婦人少年局では第二回「婦人の職業意識を高める運動」を全国に行うことになつていますが、ここに昨年行つた第一回婦人の職業意識を高める運動の結果を報告して参考に供したいと思ひます。

第一回のこの運動は一九五一年十二月から一九五二年二月までの三か月間にわたつて、関係機関の協力のもとに全国的に行われましたが、その対象は一般に婦人労働者、使用者、教師、学生生徒におかれ、(1)婦人の職業と労働についての理解をふかめる、(2)婦人の能力をいかす就職をすすめる、(3)婦人の職業技術の向上をうながす。の三目標のもとに行われました。

文部省関係公庁、民間団体、報道機関、司令官等、婦人労働、職業に關する広範にわたる官公庁、民間団体の主催、其他の各種研究會、懇談會が三〇回以上あり、これらの会合の出席参加者の延べ人員は四一、六三一名でした。(この数には、報告のなかつたものは含まれていないので、実際にはもっと多い)その他ラジオ、新聞等による広報活動も著しく、これは特に運動目標を中心に各都道府県で行われた種々の会合において討議された意見の主なものを述べましょう。

(一) 婦人の職業と労働についての理解をふかめるについて
婦人労働者の意見として特に(1)婦人の職業と労働についての理解は家庭、職場、学校、社会、すべてに亘つて、社会意識は低調なむきもあり、啓蒙運動が必要であると共に、婦人自身の自覚も必要である。(2)結婚による家庭と職場の両立のためには社会施設として母子保健施設が必要である。(3)最近女子の職業意識が高められていくのに対して、就職口のない点が厳しい現実としていえない。等の意見が多く、又婦人は働く目標がはっきりしていない。女子は職業意識が低く、勤務二、三年では職場の責任ある地位までに至らないなど、婦人労働者自らの反省として注目すべきものといふまじよう。

(二) 婦人の能力をいかす就職をすすめるについての意見
主なものは、教師として特にこの問題について力説討論しておられ、就職における適性発見と、能力をいかす就職をすすめる事、職業意識をのべ、就職の少い現状から適性発見による選択の困難性があげられ、職業指導の拡充と補修所の充実が要請されています。

ことに学校側は就職困難について、職業訓練の希望が非常に強く、求人側は技術者の養成に力を入れるべきであるといふ意見が述べられ、就職指導の強化による啓蒙、社会觀念の向上が求められ、働く婦人の地位向上がはからねばならないと、特に使用者から、婦人の指導と訓練の計画について(1)職場での指導、(2)TWI式の採用、(3)職場の養成教育、(4)指導者の訓練を力説したものの、或は婦人の人事係をもつてスムーズな管理を実施している労働工場の場合などもありました。又教育者の立場からは従来の

労働者の主婦は どんな意見を持つてゐるか

生活や組織活動について

婦人少年局では昨年十一月、労働者家族の生活を高める特別活動を行いました。その一事業として労働者の主婦が毎日の生活や夫の職場について、また労働組合や家族組合についてどんな意見を持つてゐるかを調べました。そのなかから主な問題をとり上げてみますと次のとおりです。

一、生活について
調査の対象となつたのは、この活動に際して全国的に開かれた「労働者家族の生活を高めるための懇談會」に出席した主婦たちで、三七三四名が集計されましたが、年齢は三十才代が一番多く、四二%を占めており、夫の勤先は工場、鉱山の現業部門が主で、八八%が鉱業と製造工業で占められ、それも半数近くが鉱業の不備、女性の無自覚で職教育の徹底、社会觀念の向上が求められる等、働く婦人の地位向上がはからねばならないと、特に使用者から、婦人の指導と訓練の計画について(1)職場での指導、(2)TWI式の採用、(3)職場の養成教育、(4)指導者の訓練を力説したものの、或は婦人の人事係をもつてスムーズな管理を実施している労働工場の場合などもありました。又教育者の立場からは従来の

花嫁教育的な女子教育を切り替え、自らの生活を打ち立てるための自ら働ける人を作る必要を述べた教育の意見や、技術を身につけることが今後の婦人の在り方の重要な役割であるとの意見などが提出されました。

とまれ、本運動が全国的に大きな影響を与えた事が、地方の報告から受取られたと共に、今後婦人職業の展開に第二、第三次の本運動の展開が各方面から熱望されておられます。

時間はわずかに一三%、二時間四七分にすぎません。しかも家庭婦人には平日も休日もないのが特徴ですが、主婦たちには一日のうちでの時間が一番欲しいのかをきいてみますと、新聞や本を読んだり、会合に出席したりするようないくつかの文化活動時間を希望する者が一番多く、四五%、次いで家事や子供の相手をする時間を希望する者が三七%、内職の時間を希望する者は一七%でした。このような希望は、妻が仕事を持っているかどうかによつて大きな相違があります。家事を何となく合理化して新聞を読んだり、会合に出席したりしたいと社会的文化活動時間を希望していますし、内職を希望する主婦は、もつと内職をする時間がほしいといひ、一方前にも出ている主婦は家事をしたり、子供の相手をする時間を一番多く希望しています。

二、組織活動について
労働者の主婦は夫の職場を見

